

教 育 研 究 業 績 書

2019年5月1日

氏名 林徳治 印

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 1. 主体性や論理的思考能力を育成する授業 (科学研究費)	平成20年4月～ 平成29年3月	立命館大学の教育実習事後指導や教職実践演習において、実習期間で学んだ教育への使命、責任、愛情、相互理解を深めるコミュニケーション能力、教科指導力、学級経営力に関する課題を抽出させた。課題についてロジックツリーによる問題分析や目的分析を通して解決策を協議、提案させた。
2. 課外学習を担保するためのコミュニケーション能力育成用 Web 教材を活用した授業 ((独) 教員研修センタープロジェクト予算)	平成20年4月～ 平成29年3月	コミュニケーション能力の育成を図る自学自習用 Web 教材を開発し、山口大学の教育メディア論、教育学概論、立命館大学での授業研究、教職実践演習、事前・事後指導の授業において活用した。課外での視聴を通し、レポート作成時間を担保することで学修時間の増加が認められた。授業用プリント資料や演習用シートは、Web 上で提供しペーパーレスを図った。
3. 自己の成長を可視化するための学習ポートフォリオ活用による授業 (立命館大学科研連動予算)	平成20年4月～ 平成29年3月	立命館大学の事前・事後指導、学校教育演習、教職実践演習において、授業支援用の e-learning ツールを活用した。教育実習前の2回生から事後の4回生の期間、e-learning ツールによる自己分析シートの作成と提出を4回義務付け、プレゼンを実施し、学習ポートフォリオとして学習成果を確認でき自己の成長を振り返ることができるようにした。
4. アスリート学生を対象としたアカデミックスキル授業	平成20年4月～ 平成28年7月	アスリート学生のリメディアル教育の一環として共通科目を担当した。本科目では、すべてのアスリート(約200名)を少人数クラスで編成し、複数の担当教員による内容、方法のばらつきを軽減するため、シラバス、教育方法、到達目標、評価を統一した。主な目標として、誤字や文脈のルーブリック評価を通してレポート等公式な提出物の書き方(ライティング)の改善を図るとともに、授業への能動的な参画や表現伝達能力、論理的思考等のコミュニケーション能力の育成を図った。
2 作成した教科書、教材 1. 『必携! 相互理解を深めるコミュニケーション実践学』	平成19年4月 平成22年3月	本書は、コミュニケーション能力向上を目指したグループワークによる PBL のための理論と演習用テ

<p>(ぎょうせい)</p> <p>2. 『主体的に学び意欲を育てる教学改善のすすめ』 (ぎょうせい)</p>	<p>(増刷改訂版) 平成 25 年 11 月</p> <p>平成 28 年 3 月</p>	<p>キストとして開発した。全章を通して編集し分担執筆した。本書は、1.コミュニケーション(定義、構造、演習方法)、2.情報を受け止める力、3.情報を伝える力、PBL(発見、論理的思考、プレゼン)の理論と演習についてPDCAサイクルで構成した。 (沖裕貴・林徳治 他7名、全186頁) 編集・執筆担当部分 pp.1-25、pp.53-183</p> <p>本書は、学習者の主体的な学びを念頭に、学習者を取り巻く教員、職員、学校経営者による教職協働による教学改善の在り方や実践について執筆した。本書の構成は、1.教学の考え方、2.主体的な学びの理論、3.主体的な学びの実践、4.主体的な学びの支援、5.教学と情報化、6.教学と国際化、7.教学とFD、8.教学とIRからなる。教育課題であるPBL、アクティブラーニングに役立つ教育学の理論や教育方法・技術について全章にわたり編集、執筆した。 (林徳治・藤本光司・若杉祥太、全235頁) 執筆担当部分：前掲した1.2.3.5章</p>
<p>3 教育上の能力に関する大学等の評価</p> <p>1. 新任教員FD研修講師</p> <p>2. 大学教員準備セミナー講師(PFF)</p> <p>3. 大学院進学指導</p> <p>4. 教育実習の評価に関する研究補助金獲得</p>	<p>平成 20 年 10 月～ 平成 29 年 3 月</p> <p>平成 20 年 10 月～ 平成 29 年 3 月</p> <p>平成 26 年 4 月～ 平成 27 年 3 月</p> <p>平成 27 年 4 月～ 平成 28 年 3 月</p>	<p>立命館大学の新任大学教員を対象としたPBLの教授学習、アクティブラーニング、ICT活用の授業、マイクロティーチング、成績評価方法等のFD研修を担当した。また総括としてティーチングポートフォリオ作成や、日常の教育活動のコンサルタントを担当した。</p> <p>大学教員をめざす大学院後期博士課程やポスドクの学生を対象とした教育実践セミナーの講師を担当した。担当内容は、授業設計、ICTを活用した授業技術、マイクロティーチングである。</p> <p>立命館大学教職科目の学校教育演習クラス履修の学生および過年度修了生において3名が京都教育大学教職大学院へ進学、1名が山口大学東アジア研究科博士課程(学位取得)へ進学した(現：大学専任講師)。</p> <p>科学研究費補助金申請(A判定)による立命館大学での科研連動型補助金を獲得した。 研究テーマ「大学および実習校による教育実習評価の実証研究」</p>
<p>4 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <p>1. 教員免許認定講習</p>	<p>平成 24 年 8 月～ 現在</p>	<p>岐阜女子大学での大学院授業科目として教育学特論を客員教授として担当した。</p>

2. 滋賀県中学校・高等学校講演	平成 24 年 4 月～ 平成 29 年 3 月	滋賀県大津市、草津市内の中学校・高等学校において、生徒を対象にスマホや SNS 利用時の情報モラル（道徳教育）について講話した。
3. 豊中市中学校校内研修	平成 26 年 7 月	豊中市立中学校において、スマホや SNS 利用による事故防止・危機管理教育について校内研修ならびに生徒への講話を実施した。
4. 綾羽高校情報モラル講演	平成 27 年 3 月	滋賀県草津市の綾羽高校において、生徒を対象としたスマホ利用による SNS の注意点やインターネット利用での被害防止について講話した。
5 その他		

職 務 上 の 実 績 に 関 する 事 項

事 項	年月日	概 要
1 資格, 免許 1. 中学校教諭 普通免許 (技術)	昭和 55 年 3 月	大阪府教育委員会 (昭 54 中 2 普第 2792 号)
2 特許等 特になし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 1. 平安女学院高等学校校内研修 2. 奈良市教職員研修 3. 尼崎市立小田北中学校教員研修	平成 27 年 8 月～ 平成 29 年 平成 28 年 8 月～ 平成 30 年 平成 28 年 12 月	アクティブラーニングについての理解と今後の取り組みについて全教員を対象とした研修を実施した。 経験 10 年未満の教員を対象とした教師のためのコミュニケーション実践学を実施した。 アクティブラーニングについての理解と今後の取り組みについて教員を対象とした研修を実施した。
4 その他 1. 日本教育情報学会 教職開発研究会	平成 20 年 10 月～ 現在	日本教育情報学会 (会長: 林徳治) の研究会において、アクティブラーニング、FD、IR に関する実践研究に取り組み、教学改善に取り組んでいる。

研 究 業 績 等 に 関 する 事 項

著書, 学術論文 等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の年月	発行所, 発表雑誌等 又は 発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 必携! 相互理解を深める コミュニケーション実践 学	共	平成 19 年 4 月 平成 22 年 3 月 (増刷改訂版) 平成 25 年 11 月	ぎょうせい	(再掲のため、略)
2. 元気がでる学び力	共	平成 23 年 4 月	ぎょうせい	(再掲のため、略)

<p>3. 主体的に学び意欲を育てる 教学改善のすすめ</p> <p>4. 岐阜女子大学 教員免許 状更新講習通信教育テキ スト 選択領域 C「主体的・対話 的な深い学びとその評価」 第 5 講 主体的・対話的な 深い学びとコミュニケー ション</p>	<p>共</p> <p>共</p>	<p>平成 22 年 8 月</p> <p>平成 29 年 12 月</p>	<p>ぎょうせい</p> <p>岐阜女子大学</p>	<p>(再掲のため、略)</p> <p>(林徳治 他 20 名、全 176 頁) 編集・執筆担当部分 pp.92</p>
<p>(学術論文)</p> <p>1. 伝承と協働活動を融合し たハイブリッドな学会を めざして</p> <p>2. 日中国際交流における学 術組織の役割と課題</p> <p>3. 栄養教諭の養成課程にお ける持続可能な学びにつ ながる学習デザインの開 発と評価</p>	<p>単</p> <p>共</p> <p>共</p>	<p>平成 26 年 8 月</p> <p>平成 29 年 12 月</p> <p>平成 29 年 12 月</p>	<p>日本教育情報学会 第 30 回年会論文集</p> <p>日本教育情報学会 国際教育情報交流研究 会</p> <p>日本教育情報学会 国際教育情報交流研究 会</p>	<p>設立 30 周年を迎える日本教育情報学会のこれ からの在り方について、歴代会長による理念の 「伝承」と、発展を目指した会員集団による「協 働」の融合について考えた。 (pp.34-40)</p> <p>日本が 2020 年を目標に進めている「留学生 30 万人計画」の現状と課題について述べた。日本 への留学を希望する中国の高校生や大学生の支 援を目的とし、現地の高校や大学、日本の大学 との連携を図るために、日中それぞれの学会な ど学術組織の果たす役割および課題について述 べた。 (林徳治・袁廣偉・黒川マキ、pp.1-10)</p> <p>本研究は、現行の栄養教諭の教職科目において、 主体的・対話的で深い学びを取り入れたアクテ ィブラーニングを継続的に実施することで、持 続可能な学びにつながる学習デザインを開発す る。持続可能な学びを身につけることにより、 学校現場での柔軟な対応、生徒指導や道徳など を包括した多様で高いレベルの食育指導ができ る栄養教諭の育成を目的とする。 (林徳治・水野千恵・若杉翔太・黒川マキ、pp.61- 69)</p>
<p>(その他)</p> <p>1. 中学校教科書 技術・家庭 [技術分野]</p> <p>2. 中学校教科書 技術・家庭 [技術分野] 学 習指導書</p>	<p>共</p> <p>共</p>	<p>平成 26 年</p> <p>平成 26 年</p>	<p>開隆堂</p> <p>開隆堂</p>	<p>(間田泰弘、林徳治他 58 名)</p> <p>(間田泰弘、林徳治他 58 名)</p>

3. 大学生のコミュニケーション能力の改善が主体性に及ぼす効果の実証研究	共	平成 26 年 4 月	平成 25 年度科学研究費補助金（基盤研究(C)）23531030 最終報告書	大学生のコミュニケーション能力の改善に着目し、開発した学習モジュールを現行の共通科目など教養教育の科目に取り入れた実践を通して、学生の学習目標、意欲、態度の育成を通し、新たな行動や意識変容についての実証結果について述べた。 (林徳治 他 5 名、全 140 頁)
4. 教師のコミュニケーション能力向上のための研修プログラム	単	平成 30 年 7 月	慶應義塾大学出版会 教育と医学 第 66 巻 第 7 号 通巻第 781 号	教師に求められる学習者間での「相互理解のためのコミュニケーション能力」は、画一的、理論的なものではなく、主体的な学びの姿勢が大切となる。本稿では、コミュニケーション能力の考え方や教員研修の事例を紹介した。 (pp.36-43)

(注)

- 1 この書類は、学長（高等専門学校にあつては校長）及び専任教員について作成すること。
- 2 医科大学又は医学若しくは歯学に関する学部若しくは学部の学科の設置の認可を受けようとする場合、附属病院の長についてもこの書類を作成すること。
- 3 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。
- 4 「氏名」は、本人が自署すること。
- 5 印影は、印鑑登録をしている印章により押印すること。ただし、やむを得ない事由があるときは、省略することができる。
この場合において、「氏名」は、旅券にした署名と同じ文字及び書体で自署すること。